

★ まちづくり ★ ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

174号



2015年10月26日

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

○ ときわ台駅80周年記念展 — 南宇都宮駅からの大谷石の道 —

1935年(昭和10年)10月20日、東上線に新たな駅が誕生しました。東武鉄道が計画し分譲した常盤台住宅地の門として、大谷石で造られました。それが「武蔵常盤」駅です。1951年(昭和26年)に今の「ときわ台」駅に改称しました。

今年80歳、人間で言えば「傘寿」を迎えました。この駅舎がいつまでも健在で、私達を送り迎えしてくれますように!との祈りを籠めて、10月1日~6日、「ギャラリー服部」で記念展を開催しました。

また、記念講演を10月4日(日)板橋区立中央図書館視聴覚室を借りて行いました。講演内容を以下に纏めました。

「東上線とときわ台」

花上嘉成さん(東武博物館名誉館長)

東上鉄道創業の明治期、鉄道は貨物輸送が中心。路線の構想図では、巢鴨から群馬・渋川を経由して、新潟・長岡へと続く構想があったことがわかる。東京から日本海へ抜ける鉄道は、直江津か郡山経由しかない中で、その真ん中を貫く動脈を切り拓こうとした思いが窺える。

池袋~坂戸間の開通の後、1920年に東武鉄道と合併。社長は根津嘉一郎。東武本線と東上線をつなぐ西新井・上板橋間の西板線が計画され用地取得を進めたが、敷設計画断念によって、常盤台は生れた。

鉄道会社の沿線住宅地開発としては、阪急の小林一三の日本初の沿線住宅地開発となる大阪池田の室町住宅地(1920)を嚆矢とし各鉄道会社がそれに続いた。

武蔵常盤駅の開業は1935年。駅舎は南宇都宮駅(1933)の図面が駅舎の標準スタイルとしてほぼそのまま使われていると思われる。

最近になって、同じ東武鉄道の宇都宮線にある「南宇都宮」駅との関係が注目されています。両駅は建造年も近く、珍しい大谷石造りであり、細部に至るまでデザインが同じなのです。

恐らく「南宇都宮」駅は地元特産の大谷石の宣伝を兼ねて東武鉄道初の大谷石造りとしたということなので、住宅地として大谷石を多用した常盤台の駅舎も、宣伝を兼ねて同じデザインにしたのではないのでしょうか。

○ 80歳を祝って

実際の誕生日の10月20日、80本の花やカボチャを駅前で乗降客に配りました。駅長さんは上板橋駅兼任なので、駅員さんにダリアを1本受け取っていただきました。

「駅舎建築の系譜とときわ台駅」

小野田滋さん(鉄道総合技術研究所)

日本の駅舎は最初はとりあえずの機能を満たす為、後の増改築がし易い木造平屋建築が多かった。駅舎建築はイギリスのものを50年遅れで輸入する形ではじまる。西洋建築への憧れから、鉄骨煉瓦や鉄筋コンクリート造のもの、百貨店を複合したターミナル駅など、時代ごとの特徴的な駅舎があちこちでできてくる。とんがり屋根のハーフティンバーは原宿駅や鎌倉駅などに共通的にみられる等、駅舎建築は模倣されることがある。京都の旧二条駅は当時の宇都宮駅の図面をもとに造られた歴史もある。

ときわ台駅の駅舎は、青いスパニッシュ瓦、四角錘の方形(ほうぎょう)屋根、凝灰岩(大谷石)の使用などが特徴的。南宇都宮とも共通。帝国ホテルの特徴と比較して、フランクロイド・ライトの影響を受けている可能性が高いと思われる。(文責 N)

また「顕正会」が事件

「東京新聞」十月五日に、顕正会の会員三人が、大学生を東京見物と称して常盤台近くの駐車場に車で連れて行き、未成年者誘拐の疑いで逮捕された記事が出ていました。

何かと警察沙汰になる新興宗教ですが、こういうことで常盤台の名前が出てくるのは情けないことです。

言葉の幾つか(6)

* 主人

この言葉ほど厄介なものはありません。「主人が」と言っている人は全く無意識に無邪気に使っているからです。よく考えれば、自分の主人は自分しかないのですが。

万葉の昔、「つま」と云う言葉は男女の双方に使われていました。先生から「つま」は不完全なもので、英語のベター・ハーフのハーフみたいなもの、と教わりました。不完全なもの同士がめぐりあって一対の完全な存在になる、なんて素敵な発想に思えました。

「亭主関白」の反対は「嬖天下」ではなく、「平等」ということなのをどのくらいの人が理解しているでしょうか。夫婦の間柄にまで上下関係をつけようとしたのでこういう言葉がいまだに幅を利かせているわけです。

「主人」に代わる言葉はまだ見つかっていません。「連れ合い」も「パートナー」も、この長い男女の上下関係の文化と歴史をくつがえすには至っていません。

中央図書館の行方

七月以来、常盤台住民に対する説明会は開かれています。経過説明でよいので、開いて欲しいと申し入れてあります。

また、平和公園周辺住民の主催するシンポジウムが十一月三日(祝)午後四時から常盤台地域センターであります。

弱いものいじめをさせないしつけ

北・練馬・板橋で猫の惨殺死骸が発見され、二丁目でも先日猫の死骸が見つかり、関連が云々されています。

先日一丁目ではハトの脚が落ちていて、気味悪がった子どもが親に知らせ、親から警察に連絡、鑑識も飛んできました。付近にカラスもハトもいるので、カラスの仕業と断定されませんでした。やれやれでしたが、猫などの小動物を殺す行為はエスカレートする、と幾つかの事件が教えています。子どもにそんな傾向が見られたら、幼時からきちんと教える必要があります。

動物作家のターヒューンは、子供の頃、子犬の耳をつかみあげて遊んでいたら、お父さんが来て、いきなりターヒューンの耳をつかんで持ち上げたそうです。あまりの痛さに泣き叫んだ彼は二度と弱いものいじめをしなくなり、それどころか動物好きの作家になったのです。これは極端な例かもしれませんが、相手の痛みを知り、思いやる力を育てれば、イジメや殺傷を興味本位でするようなことはなくなると思うのですが……

常盤台公園のはなづくり

十一月二十日(金)の朝、公園課から花の苗が届きます。私達が別に用意したチューリップの球根と共に植えつけます。もしお手すきでしたらシャベルを持ってご参加頂けると有難いです。

これから落葉の季節です。常盤台の街の良さに、道の掃き掃除の姿があると思うのは筆者だけでしょうか。

腰をかがめて、人の目につかないように、早朝と決めたりして、お隣どころか二、三軒先まで掃いている姿を見かけます。一丁目のDさんは「掃き清める」という気持ちでやっています」と言っていました。本当にDさんの近所は、道路なのに禅道場の場のように清められていて気持ちよいのです。

この風習がながく続いて行きますように、と思いますが、若い人たちに継承してもらいたいものです。仕事に忙殺されていたり、簡便なマンション生活をよしとする若者には、面倒な仕事と敬遠されそうですが、常盤台に住む限りはこういうことも覚悟のうちかもしれません。なるべく若い世代にバトンタッチしていきましよう。